



VOL.75 2026.5

フリー
ペーパー
ペッコ

PECCO

若手県立図書館



安倍宗任伝 前九年・後三年合戦

平谷美樹 著／実業之日本社

平安中期、陸奥国奥六郡（現・岩手県）を治めた安倍一族。頼良と真任・宗任兄弟は幾度も戦を退けてきたものの、密偵の策略と源頼義・義家親子率いる朝廷軍に攻められ、一族滅亡の危機に。しかしそこには驚愕の「秘策」が！東北・九州に伝わる宗任伝説を基に描かれた、岩手生まれの作者によるデビュー25周年記念となる大河巨編です。



恋のすべて

くどうれいん・染野太朗 著／扶桑社

雑誌『Numéro TOKYO』に掲載された短歌の連載「恋」が1冊の本に。エッセイや小説のほかにも短歌も手掛ける作家くどうれいんと歌人染野太朗による、さまざまな恋が短歌で表現されています。新作として書下ろした、くどうれいんの「川面」、染野太朗の「蛩」と二人が詠みあった贈答歌を収録。著者のくどうれいんは盛岡市出身です。

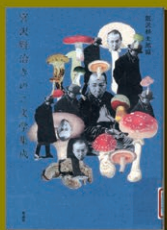


生と死の物語

古典・名作にみる〈この世〉と〈あの世〉

大角修 著／大法輪閣

この世のことが文学のテーマではありません。古代から近現代に至るまで、古典や名作に記されたこの世・あの世の情景を考察します。「近代＝明治以降」の章では、本県を代表する作家・石川啄木と宮沢賢治の作品が取り上げられており、「石川啄木の彼岸へのまなざし」、「宮沢賢治の『水仙月の四日』」がひもたかれています。



宮沢賢治 きのこ文学集成

宮沢賢治 著／飯沢耕太郎 編／作品社

宮沢賢治の作品の中からきのこにまつわるものを集めたアンソロジー。きのこをテーマに小説、詩、短歌、俳句、エッセイ、漫画や歌詞を研究してきた編者によって、いつもと違った視点から宮沢賢治の世界に触れることができます。巻末には「編者解説 きのこ文学者としての宮沢賢治」も掲載されています。



神の光

北山猛邦 著／東京創元社

『硝子の間』という装飾部屋のあった館、限られた者しか行けないカジノがあった砂漠の街などが、一晩の内に消えてしまった。さまざまな状況のなかで起こった消失ミステリーが5作収録された短編集。物理トリックを駆使したミステリーと、著者の持ち味である幻想的な作風が楽しめる作品です。著者は盛岡市出身です。



酒どころを旅する 日本酒の味わいと物語を楽しむ

山内聖子 著／イカロス出版

日本酒が好きな著者が全国の蔵元のなかから選りすぐりの57軒を収録。その蔵元の歴史や作られているお酒のおすすめポイントなどが余すことなく紹介されています。岩手県からはおすすめの蔵元として、新たに雫石町に移転した「菊の司」が紹介されています。著者は盛岡市出身です。